

## 学生提案成果報告(2) ①

### —地方美術館の魅力と空間利用—

宇都宮共和大学シティライフ学部今ゼミ 3年 山口大輝（やまぐち だいき）

大吉優斗 松田りさ

**<概要>**本研究は、栃木県を中心に地方にある美術館に焦点を当てて観光資源としての魅力を見出すものである。日本の主要産業が第三次産業の観光業にシフトした今、地方の美術館がどのような役割を果たすことができるのか。また、どのようにして美術館に人を呼ぶことができるのかを目標に行った研究をまとめたものである。

**<栃木を元気にするには>**美術館の強みとして、自由度が高く地元の特産品や産業との結びつきやすさが挙げられる。具体的には栃木県の誇る大谷石・八溝材など地元の素材を活かした【那珂川町馬頭広重美術館】や【那須芦野・石の美術館】がある。こうした取り組みや美術館を美術館以外の空間で利用してもらうことで身近に感じてもらうことが出来る。

#### <研究の背景と目的>

本研究は都道府県魅力度ランキング<ブランド総合研究所>で栃木県が初めて最下位を取ってしまったことが発端である。この結果を受けて、我々は栃木県内には様々なコンテンツがあるものの、それを発信する力がないことに気が付いた。ゼミでの活動を重ねた結果、栃木県内の既存の文化施設に目を向け、その施設にどうやってより多くの人を呼ぶか考えることをゼミの目的として活動することに決めた。

具体的な活動内容とフィールドワークは以下の通りである。

★はゼミ全体での活動

日付／フィールドワーク場所	備考
2021/10月 那珂川広重馬頭美術館	隈研吾氏設計の広重美術館。馬頭町
2021/11月 栃木県立美術館★	ゼミ全体での一回目のフィールドワーク
2022/07/07 群馬県太田市立美術館図書館	美術館・図書館の文化複合施設
2022/08/11 栃木県なかがわ水遊園★	2回目のフィールドワーク
2022/08/21 千葉県佐倉市 DIC 川村記念美術館	DIC 株式会社が設立した私立美術館 地方の空間型美術館の代表例
2022/09/30 宇都宮美術館	宇都宮市の代表的な近代美術館

**<ゼミ活動をして気づいたこと>**一回目のフィールドワークで、普段美術館に行かないゼミの学生が展示を集中して見ていて「時間が足らなかった」と言っていたことが印象的だった。私がいつも美術館に行っていることは、美術館の利用者の年齢層が高齢者に大きく偏っていることである。しかし、実際に美術館に行けば若い人でも美術館を楽しめることが出来ると改めて感じた。

### <地方の美術館と大都市美術館の違い>

	地方美術館（栃木県）	大都市美術館（東京、京都、大阪）
作品	地元ゆかりの作品	有名画家、作品の展示
課外活動	教育、地域交流イベント (ワークショップ、出張授業)	ショップ、併設カフェの充実
空間	静かで開放的な空間	人混みで混雑した空間
アクセス	車、バスが多い	徒歩や自転車で行ける
対象	地元の人向け	全国の人々向け

・大都市美術館は全国の人々に向けて貴重な作品を見られる体験を与えるが、地方の美術館は地域の人々に美術の面白さや寛げる場所としての空間を与える。

### <宇都宮美術館の空間利用>

宇都宮美術館は宇都宮市長岡町にある国立美術館である。建物は宇都宮市郊外の26haの広さを持つ「うつのみや文化の森公園」内にある。今年の9月24日まで一年以上に及ぶメンテナンス休館を行っていたが25日から運営を再開した。「地域と美術」「生活と美術」「環境と美術」をテーマにした近現代美術やポスターなどを中心に国内外の作品を所蔵している。

美術館以外の空間利用として公園内の大自然を活かした森のコンサートや自然観察会、森のアトリエとしての創作活動を行っている。



### <具体的な提案>

宇都宮共和大学那須キャンパスを使った美術イベント。

那須キャンパスは普段授業で使用されない場所なので、他大学・組織と連携して地元の子供を中心とした美術・文化交流イベントを行い、子供たちを中心に美術を身近に感じてもらう。

### <まとめ>

地方美術館では有名画家による大規模な展示・企画展は難しい代わりに広大な敷地を活かしての美術をより身近に感じてもらうための教育・文化イベントを行うことができる。個人的に県外の観光客を呼ぶにはまず、地域の人たちから普段利用されるような場所でなければ人は来ないと思うので、特に子育て世代や若者層など普段美術館に行かない人達に来てもらうことが早急の課題である。